

名古屋ガイドウェイバス ～日本最初で唯一のガイドウェイバス～

2001年に開業した名古屋ガイドウェイバスは「ゆとりーとライン」の愛称で知られており、大曽根—小幡緑地間のガイドウェイバス区間と、そこから先は一般のバスとして最長で高蔵寺まで走っています。

✦ 車輛の特色

ガイドウェイバスは専用軌道上をハンドル操作なしに進むバスですから、法規的には鉄道に分類されています。車輛自体はバスですから、一般的な路線バスタイプの車輛にガイドウェイ区間走行用の案内装置を取り付けるなどの改造を行ったものです。現在、開業当初に導入した車輛を2013年から導入が始まった新車への置換えが進み、現在は全て新車に置換えられました。

✦ 路線の特色

名古屋市守山区の北側に位置する志段味地区は JR 中央本線と名鉄瀬戸線に挟まれた細長い地域です。この地域は鉄道空白地帯であり、しかも名古屋市都心部へ向かう道路は常に慢性的な渋滞に悩まされています。このため、唯一の交通手段であるバスは渋滞のために定時運行が出来ない状態でした。そのような事情から開発も進まず、名古屋市内では最も開発の遅れた地域となっていました。そこで、名古屋市は基幹バスを志段味地区へと走らせる計画をしていました（他にも交通空白地帯である港区内などにも走らせ、名古屋市を縦横無尽に基幹バスが走り回る予定があったのです）。1980年代末期に志段味ヒューマンサイエンスパーク事業が計画されます。これは緑の多い志段味地区に研究所や大学などを誘致しようという計画で、それまで1万人程度だった志段味地区の人口を将来的に6万人にまで増やそうという計画でしたが、実現した場合には基幹バスではとても対応出来ないということが判明し、中量交通機関の建設が最も良いという結論に至りました。そこ

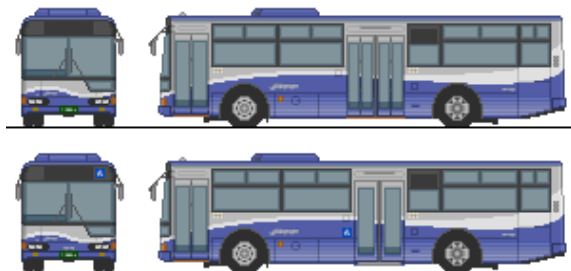
で、1980年にドイツのエッセンで導入されたガイドウェイバスを導入することが検討され、研究開発が進められました。ガイドウェイバスにはバスと新交通システムの間くらいの輸送力を持ち、ガイドウェイ区間が終われば普通のバスとしてどこへでも走って行けるという利点がありました。輸送力が増えた場合、新交通システムに作り替えることが出来るというのも魅力的でした。

そして1990年には建設が決定され、本格的に建設に向けた準備が始まりました。1994年、名古屋市、名鉄、ジェイアール東海バスなどの出資による第三セクター名古屋ガイドウェイバスが発足。そして1996年によく着工され、2001年に開業を果たしました。

しかし、開業後当初予定していた輸送人員を大幅に下回ってしまいます。これは志段味地区の開発があまりに遅れていたことが原因で、当初計画の将来人口6万人が未だ1万6千人程度に留まっていたのです。こうしてガイドウェイバスは苦難のスタートを切りました。それから10年以上が経った現在、志段味地区の人口は2001年のおよそ1.5倍となり2万人を超えました。ガイドウェイバスの輸送人員は当初の5,900人/日から9,800人/日に増えました。ガイドウェイバスの開業や周辺道路の整備により志段味地区の開発が進み、またガイドウェイバスの運賃制度を改善したこともあって、利用者も増えて来たのです。

苦難のスタートを切ったガイドウェイバスはその成果をゆっくりと、しかし着実に上げているようです。

GB-1000 ・ GB-1100 形 ～三菱ふそう・エアロスターベースのガイドウェイバス第 1 世代～



全長:10,750 mm 最高速度:60km/h エンジン:6M70

GB-1000 形と GB-1100 形は 2001 年の ゆとりーとライン 開業時に用意された車輌です。双方ともに三菱ふそう製のエアロスターをベースにしています。GB-1000 形は 11 両製造され、GB-1100 形は 2 両製造されました。GB-1000 形は通常のツーステップ仕様であり、GB-1100 形はリフト付き仕様となっています。

GB-2000 ・ GB-2100 形 ～日野・ブルーリボンシティベースのガイドウェイバス車輌～



全長:10,670 mm 最高速度:60km/h エンジン:P11C

GB-2000 形と GB-2100 形も 2001 年の開業時に用意された車輌です。日野自動車製ブルーリボンシティをベースとしており、GB-2000 形が 7 両、GB-2100 形が 5 両製造されました。GB-2000 形は通常のツーステップ仕様、GB-2100 形はリフト付き仕様となっています。日野製ですが、ホイールハブと案内装置は三菱製です。

GB2110 形 ～2013 年より導入が始まった日野ブルーリボンシティ・ハイブリッドベースの最新鋭車輌～



全長:10,525mm 最高速度 60km/h エンジン:J08E-1M

GB-2110 形は開業時に用意された GB-1000 系列や、GB-2000 系列を置換えるために、2013 年より導入され始めた車輌です。日野自動車製ブルーリボンシティ・ハイブリッドをベースとしています。ノンステップ車輌も検討

されましたが、案内装置などの装備を取り付ける必要があるため、ツーステップのままとなりました。

試作車 1000 形 ～融雪剤散布車として残るガイドウェイバスの試作車輌～



名古屋ガイドウェイバス本社の駐車場に留置されており、融雪剤散布車として時折使用されているようです。

試作車 1000 形はガイドウェイバス共同実験研究会が製作した試作車輌です。三菱ふそう製のエアロスターをベースとしており、内装などは名古屋市営バスの基幹バスに準じたものとなっています。普段は小幡緑地駅地上の

＋ 参考文献

- ・ まるはち交通センター URL : <http://www.maruhachi-kotsu.com/index.html>
- ・ 『鉄道車両年鑑』各号 電気車研究会